

平成 17 年 10 月 26 日

東京大学 大学院総合文化研究科
教養学部 駒場博物館

**「form_raum_idee — デッサウのバウハウスとハレのブルク・ギービヒェンシュタイン
美術デザイン大学、世界の現代デザインを切り開いた二つの美学校」
開催のご案内**

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館では、10 月 29 日（土）より特別展「**form_raum_idee** — デッサウのバウハウスとハレのブルク・ギービヒェンシュタイン美術デザイン大学、世界の現代デザインを切り開いた二つの美学校」を開催いたします。あわせて、現在におけるバウハウスの活動と世界における存在意義を解き明かす試みとして展覧会会期冒頭に、2 部構成のシンポジウムを行います。

展覧会開催に先駆けて、10 月 28 日（金）午後 5 時 45 分より、駒場博物館一階・美術博物館展示室にて、報道関係者を対象とした展覧会の趣旨説明を行います。当日は、東京大学総合文化研究科・教養学部 駒場博物館・バウハウス展企画準備委員会 委員長 池田信雄（東京大学総合文化研究科教授）が会場をご案内いたします。

多用の折とは存じますが、何とぞご来場賜りますようご案内申し上げます。

本件に関する問い合わせ

東京大学大学院総合文化研究科
教養学部 美術博物館

TEL: 03-5454-6139

FAX: 03-5454-4929

企画概要

form_raum_idee — デッサウのバウハウスとハレのブルク・ギービヒェンシュタイン美術デザイン大学、世界の現代デザインを切り開いた二つの美学校 —

構成：展覧会およびシンポジウム

目的：ドイツのデッサウで1923年から1932年まで活動したバウハウスが、その短期間に、建築のみならずデザインと工芸の分野に新時代を切り開いた衝撃は、21世紀を迎えた今も、なお持続している。けっして古びることのないデザインが生まれた秘密を巡って、世界中でいまでも謎解きの議論が続けられている。

東京大学総合文化研究科とザクセン＝アンハルト州文化省は、「日本におけるドイツ2005/6」の関連行事として、20世紀前半の造形デザインに時代を画した二つの美学校、デッサウのバウハウスとハレのブルク・ギービヒェンシュタインを紹介する展覧会 **form_raum_idee** を開催する。本展では、二つの美学校のたどった歴史、そして復活して現在も活動を続けるデッサウ・バウハウス財団とブルク・ギービヒェンシュタイン美術デザイン大学の現在の活動を伝える。

デッサウ・バウハウス財団の全面的な協力のもと、映像、模型、メディア・インスタレーション、歴史的オブジェおよび同時代のオブジェを駆使して、バウハウスのエッセンスを展示する。またバウハウスとほぼ同時期に、デッサウの近くの伝統ある町ハレに設立され、バウハウスの教授陣と活発な交流を持ったばかりか、工房中心の教育という理念をバウハウスと同じくするブルク・ギービヒェンシュタイン美術デザイン大学の活動とその成果が、バウハウスのいわば合わせ鏡として展示される。

なお、展覧会の会期冒頭に現在におけるバウハウスの活動と世界における存在意義を解き明かす試みとして2部構成のシンポジウムを行う。

会場：東京大学総合文化研究科 駒場キャンパス内

(展覧会：駒場博物館；ワークショップ：18号館ホール)

会期：展覧会 2005年10月29日（土）より12月9日（金）まで

内覧会 10月28日（金）18時より

レセプション 10月28日（金）19時より

シンポジウム 10月29日（土）10:30～18:30

主催：東京大学総合文化研究科・教養学部 駒場博物館・バウハウス展企画準備委員会

委員長 東京大学総合文化研究科教授 池田信雄

委員 東京大学総合文化研究科助教授 田中 純

東京大学総合文化研究科教授 川中子義勝

東京大学総合文化研究科教授 加藤道夫

日本パウル・クレ協会事務局長 新藤 信

日本パウル・クレ協会 林 綾野

東京大学美術博物館助手 折茂克哉
東京大学駒場キャンパス計画室 筑紫一夫
東京大学工学系研究科客員研究員 斉藤 理
ザクセン＝アンハルト州文化省
デッサウ・バウハウス財団
ブルク・ギービヒェンシュタイン美術デザイン大学

協賛：鹿島建設・ウィルクハーン・ジャパン
博報堂インプログレス（アドバイザー）

後援：ドイツ連邦共和国大使館・東京ドイツ文化センター・ドイツ学術交流会（DAAD）
東京大学ドイツ・ヨーロッパセンター（DESK）

展示内容：A デッサウ・バウハウス・コーナー

- ・ディレクター（所長）およびマイスター（教師）の紹介パネル
- ・マイスターハウスとバウハウスの建築模型・建築図面等の展示
- ・プロダクトデザインおよびグラフィックの展示
- ・バウハウス・マイスターの作品の展示
- ・現在行われているバウハウスの活動の紹介（都市計画・舞台芸術・都市再生）
- ・ビデオラウンジ（バウハウスのスツール椅子を展示使用）

注）バウハウス関係の展示物はすべてデッサウ・バウハウス財団が今回の
展覧会用に構成し、東京大学に運び、現地で組み立てる。展示そのもの
が、バウハウスのデザインを体現するものとなる。

そのほか、パウル・クレー協会の協力により、バウハウスのマイスター
であったパウル・クレーとヴァシーリー・カンディンスキーの版画を展
示。

B ブルク・ギービヒェンシュタイン美術デザイン大学コーナー

- ・本のデザイン
- ・テキスタイルの展示
- ・ビデオラウンジ（ギービヒェンシュタインのスツールを展示：雑誌PENで
紹介）

注）このコーナーの展示物もすべてドイツであらかじめ構成され、東京
に運ばれる。

ワークショップ
「バウハウスと都市 ― 都市デザインの諸次元」

期日：2005 年 10 月 29 日（土）
場所：東京大学駒場 I キャンパス 18 号館ホール

10:30-13:00

第 1 部 現代の生活をデザインする

ヴォルフガング・テーナー（デッサウ・バウハウス財団）
「バウハウスから何が残っているか？― 様式、方法、あるいは生活の改善？」
トルステン・ブルーメ（デッサウ・バウハウス財団）
「バウハウス・デッサウ― 造形のための学校」
田中純（東京大学大学院総合文化研究科助教授）
「破壊的なユートピアとしてのバウエン― 教育機関としてのバウハウス」
加藤道夫（東京大学大学院総合文化研究科教授）
「バウハウスデザインにおける可視化について― その軸測図の使用をめぐって」

14:30-17:00

第 2 部 日本とドイツの縮みゆく都市のデザインと計画

オマール・アクバル（デッサウ・バウハウス財団所長）
「縮小の彼方：IBA 2010 ザクセン・アンハルト」
ソニヤ・ベーク（デッサウ・バウハウス財団）
「IBA 都市改造 2010: ドイツ東部における都市変容（縮小）造形のための戦略」
大野秀敏（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）
「ファイバーシティー― 縮小する都市のための都市像」
曲渕英邦（東京大学生産技術研究所助教授）
「膨張する意識・縮小する都市」

17:15-18:30

総合討議

司会（1 部 2 部とも）：池田信雄（東京大学大学院総合文化研究科教授）

入場無料・事前登録不要
日独の同時通訳付き

主催：バウハウス展企画準備委員会
問い合わせ先：東京大学

※プログラムは変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。